

基礎演習 1

責任者・コーディネーター	薬科学講座創薬有機化学分野 河野 富一 教授 薬科学講座天然物化学分野 田浦 太志 教授		
担当講座・学科(分野)	薬科学講座（創薬有機化学分野、天然物化学分野、分析化学分野）、生物薬学講座（機能生化学分野、生体防御学分野）、病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、医療薬科学講座（創剤学分野、衛生化学分野）		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	演習 24時間(12コマ)
期 間	後期		
単位数	1単位		

・ねらい

低学年科目により得られる知識は、上位学年での学びの基盤となる。本講義では、2 学年前期までに履修した科目のうち、基礎薬学、医療薬学および衛生薬学分野の対象科目について、演習等を通じて要点を整理することで、基本的知識の確固たる基盤を形成する。さらに、得られた知識基盤をもとに、科目間の連携を意識しつつ学修することで、2 学年後期以降の関連科目について、より深く理解できるようになる。

・学修目標

本講義が対象とする既履修科目の主要な学修事項について深く理解し、説明できる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

基礎薬学分野：物理、化学、生物系の薬学専門科目の対応項目
医療薬学分野：薬理学系の薬学専門科目の対応項目
衛生薬学分野：衛生系の薬学専門科目の対応項目

・学修事項

本講義では、演習等を通じて下記既履修科目の主要な学修事項に関する知識の定着をはかる。
(1) 1 学年後期科目：生化学 1
(2) 2 学年前期科目：有機薬化学 1、薬理学 1、微生物学、細胞生物学、生化学 2、食品栄養学、分析化学 1、創剤学 1

・この科目を学ぶために関連の強い科目

有機薬化学 1、薬理学 1、微生物学、細胞生物学、生化学 1、生化学 2、食品栄養学、分析化学 1、創剤学 1

・この科目を学んだ後につなげる科目

有機薬化学2、薬理学2、生化学3、食品衛生学、環境衛生学、免疫生物学、化学療法学1、分析化学2、創剤学2

・講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/10	水	3	創薬有機化学分野 天然物化学分野	河野 富一 教授 田浦 太志 教授	イントロダクション 1.この講義の重要性を説明できる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：本講義対象の既履修科目を再確認しておく。 事後学修：配布プリントの内容を再確認する。
9/17	水	4	創薬有機化学分野	稲垣 祥 助教	2 年前期に開講された「有機薬化学1」の範囲についての復習と問題演習 1.「有機薬化学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
9/22	月	4	機能生化学分野	關谷 瑞樹 准教授	1 年後期に開講された「生化学1」の範囲についての復習と問題演習 1.「生化学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
10/7	火	4	生体防御学分野	錦織 健児 助教	2 年前期に開講された「微生物学」の範囲についての復習と問題演習 1.「微生物学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。

					事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
10/23	木	3	分子細胞薬理学分野	高橋 巖 特任講師	2 年前期に開講された「薬理学 1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬理学 1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
10/27	月	4	分子細胞薬理学分野	高橋 巖 特任講師	2 年前期に開講された「薬理学 1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「薬理学 1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
11/7	金	2	分析化学分野	藤本 康之 准教授	2 年前期に開講された「分析化学 1」の範囲についての復習と問題演習 1. 「分析化学 1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。
11/12	水	4	機能生化学分野	關谷 瑞樹 准教授	2 年前期に開講された「生化学 2」の範囲についての復習と問題演習 1. 「生化学 2」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。 【ICT (Moodle)】 事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。 事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。

11/18	火	4	創剤学分野	杉山 育美 准教授	<p>2 年前期に開講された「創剤学1」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「創剤学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。</p>
11/28	金	4	生体防御学分野	錦織 健児 助教	<p>2 年前期に開講された「細胞生物学」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「細胞生物学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。</p>
12/3	水	4	衛生化学分野	米澤 穂波 助教	<p>2 年前期に開講された「食品栄養学」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「食品栄養学」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。</p>
12/8	月	4	創薬有機化学分野	稲垣 祥 助教	<p>2 年前期に開講された「有機薬化学1」の範囲についての復習と問題演習</p> <p>1. 「有機薬化学1」を通じて習得した知識について、演習等を通じて要点整理することができる。</p> <p>【ICT (Moodle)】</p> <p>事前学修：指定した講義範囲についてその内容を確認しておく。</p> <p>事後学修：講義で取り扱った内容について復習し、その改変問題を作成・提出し自己学修する。</p>

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	○
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	○

・評価事項とその方法

各講義で実施される確認テスト（85%）とレポート（15%）で評価する。確認テストは10から15問程度で、MCQ形式を基本とするが、数問の論述式問題を含む場合がある。また、本科目の学習事項はディプロマポリシー2および4に関連する。

評点算出にあたっては、各講義で実施される確認テストの総合平均が70点（100点満点換算）を超えた者にもレポートの点数を加算し、その合算値を最終評点とする。確認テストの結果は実施後速やかにMoodleサイトを通じて各学生に通知する。確認テストの未受験やレポートの未提出については、初回講義で通知した評価方法に基づき減点する。この講義の定期試験は実施しない。しかし、評点が60点未満の場合は再試験を実施する。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	対象とする既履修科目の教科書や講義資料			

・特記事項・その他

各コマに対する事前学修に20分程度、事後学修に90分程度を要する。詳細な事前・事後学修の方法を初回講義時に説明する。

講義情報については、Moodleサイトにも公開しているので必ず確認しておくこと。
当該科目に関連する実務経験の有無 無

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン	1	デジタル板書およびスライド投影のため